

2011年8月13日(土)

世界の共通語、英語を本気で身につけよう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：英語は世界の共通語なのですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)その通りです。一つ一つの国、一つ一つの民族には各々一つ以上の特有の言語(ことば)があるところが多いですが、世界の人々がコミュニケーションをとるときに一番使っているのは英語です。

(2)例えば、私は年に何回か外国に出掛け、国際会議に出席します。国際会議は、普通は英語だけで行われます。予算がつき、同時通訳の人が雇えるような国際会議の場合には、その国の言語と英語が用いられます。発言者などがその国の言語で話し始めると、その言語が理解できない人はサッと耳にレシーバーを当て、英語の同時通訳を聞きます。そのような国際会議では、その国の言語で発言できない人は英語で発言し、その国の参加者で英語が理解できない人はその国の言語の同時通訳を聞きます。日本語の同時通訳がつく国際会議はあまりありません。

(3)国際会議では、英語は世界の共通語と言えます。

Q：国際会議以外ではどうですか。

A：(1)私はよく一人で外国に行きますが、英語で書いてある表示が読めれば、空港や駅、バス停、タクシー乗り場、レストラン、ホテルで困ることはありません。わからないことがあったときは、中学校の教科書に出てくる文法事項や表現を使ってゆっくり質問すれば、英語で答えてくれる場合が多いです。相手が言っている英語がわからなければ、「ゆっくり言って下さい」とていねいをお願いすれば、ゆっくり言って下さる場合が多いです。

(2)外国に行って知り合いや友達ができるときに使うのも英語です。小学校や中学校で習った単語や語句、文法事項や表現を用いてゆっくり話せば、伝えたいことは十分に伝わります。相手の言っていることがわからないときも「もう一度ゆっくり話して下さい」とていねいに頼めば、こちらのわかる表現で話してくれることが多いのです。

(3)外国で買い物や見学、仕事をするときも同じです。小学校や中学校で習った単語や語句、文法事項や表現を用いてゆっくりとはっきり話せば、必ず伝わります。相手が言っていることがよくわからなければ、「もっとゆっくり話して下さい」と頼めば、必ずそうしてくれます。

(4)このように、国際会議以外にも、英語は世界の共通語と言えます。

Q：外国では英語を話す人がそんなに多いのですか。

A：(1)日本では考えられないかもしれませんが、生活できるだけの収入を得るには「英語」と「IT」つまりコンピュータ、それに「専門分野の知識や技術」は欠かせないと考えて、自分や家族の生活のために死に物狂いで「英語」と「コンピュータ」、それに「専門分野」を勉強している学生や社会人が世界には山ほどいます。

- (2) ヨーロッパでは経済統合が進み、多くの国で共通通貨としてユーロが使われ、人や物、お金の移動がほぼ自由になりました。ヨーロッパの国々では多くの言語が用いられ、それぞれを大切に使っていますが、ヨーロッパの共通言語も今や英語です。英語が使えなければ、仕事の上で困ることが多いようです。
- (3) アジアも経済連携がどんどん進んでいます。アジアの国々にも多くの言語がありますが、アジアの共通言語は英語です。生活できるだけの収入が得られる仕事に就きたければ、「英語」と「コンピュータ」、「専門分野」は欠かせないとアジアでも言われています。
- (4) 例えば、中国の人々は実によく英語を勉強します。ビジネスマンや大学生は当然のこととして、小学生も中学生も高校生も実に素晴らしい英語を話します。「English Makes Money」(英語はお金になる)ということばもあるほどです。
- (5) また、長年貧困のドン底にあえいでいたインドでは、英語を話せる人が少なかったのですが、この10年間は経済が絶好調なので、英語を勉強する人が激増。貧困から脱却するために、これから5年間で大学を1600つ作り、「英語」と「コンピュータ」、「専門分野」を徹底的に教育するのだというインドのシン首相の演説を、何年か前のインドでの国際会議で聞いたことがあります。
- (6) 世界の人々は自分の生活や人生を懸けて本気で英語を勉強しているのだと、私には感じられます。

Q：塾長は何が言いたいのですか。

A：(1) そろそろ日本人も本気になって英語を勉強してはどうかということです。

- (2) 開倫塾の塾生の皆様にはあまり心配をかけたくないのですが、世界の国々は今、国がつぶれるかどうかかわからない、何があってもおかしくないと言われるほど、国の経済の状態がよくありません。
- (3) 日本もまた、平穏な生活が送れるのもいつまでかわかりません。
- (4) はっきり言って、今のまま円高が続けば、多くの日本の企業は海外に打って出る以外に生きる道はありません。また、元気で優秀な外国の方々や外国の企業をもっともっと日本に迎え入れ、活動してもらう以外に生きる道はありません。
- (5) 就職は、どこの国でも大変です。とても言いにくいことですが、ヨーロッパの国々や中国、インド、韓国の同世代の方々と同じくらい英語ができなければ、学校を卒業しても、生活できるだけの収入を得られる仕事に就くことは難しいと私は考えます。
- (6) 日本人は学生も社会人も、ヨーロッパの国々や中国、インドや韓国、その他の国々の人と同じか、それ以上に、もっともっと英語を勉強する時期に入ったのだと考えます。

Q：そうですか。話が戻りますが、小学校や中学の英語が役に立つのはわかりましたが、高校の英語も役に立つのですか。

A：(1) 中学校の英語の文法事項や表現は、簡単なことを言ったり、簡単なことを聞いたりするときに役立ちます。

- (2) 高校の英語は、簡単な内容の英語の文章を読んだり書いたりするのに役立ちます。ちょっと複雑なことを言ったり聞いたりするときにも役立ちます。
- (3) 英語のよい文章を読むことはとても大事です。なぜなら、読んでわからないような内容は聞いてもわからないし、その内容を話すことも、また書くこともできないからです。
- (4) 学校の教科書や開倫塾のテキスト、センター試験や大学入試に出てくる文章は、先生が選び抜いた「読む」に値する素晴らしい文章ばかりです。それらの文章の意味を「理解」すると同時に、その内容が「聞き取れる」「話せる」「書ける」ようになるまで「音読練習」と「書き取り練習」をしながら確実に身に付け、自分のものにして頂きたいと私は切望します。
- (5) 話が戻りますが、小学校や中学校の英語の教科書の文章、開倫塾のすべてのテキストの文章も、先生方が選びに選んだものばかりです。
中1～中3の開倫塾模擬テストや中3の下野模試、群馬統一模試、茨城統一テストの英語の問題文の文章も素晴らしいものばかりです。
私立高校や県立高校の入試の英語の問題文の文章も、出題担当の先生方が選び抜いたものばかりです。
高校入試の勉強に出てくる英語の文章もすべて、その内容が「読める」「聞き取れる」「話せる」「書ける」ようになるまで、「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返して下さいね。
- (6) 皆様の競争相手は、日本人だけではありません。中国、インド、韓国など世界中の人々です。シンガポールやカンボジア、インドネシア、ベトナムの小学生、中学生、高校生がどれだけ英語を勉強しているかと言えば、それは相当なものです。学校や開倫塾での英語の勉強もしっかりやって下さいね。

Q：この秋にある実用英語技能検定試験(英検)は受けたほうがよいのですか。

A：(1) はい。夏休み後半から勉強すれば、10月中旬までは2か月ほどありますので、誰でも希望する級に合格します。小学生でも英検3級に合格します。群馬県太田市にある群馬国際アカデミーでは、中学校に入るまでに英検準2級に合格するように学校から言われているそうです。

(2) 英検の問題文に用いられる英語はどれも素晴らしく、世界で通用するものです。まずは、開倫塾のテキストと英検の過去問にじっくりと取り組んで下さい。

(3) 次に、一度勉強して「理解」した英語の文章は、「読める」「聞き取れる」「話せる」「書ける」ようになるまで何回も、何十回も、何百回も「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返し、自分のものにして下さい。

Q：最後に、一言どうぞ。

A：(1) 日本にいても、学校や開倫塾で今やっていることを「本気で」勉強すれば、世界の共通語としての英語がいくらかでも身に付きます。

(2) 世界に視野を広げ、高い志を持って、世界の共通語である英語を「本気で」身に付けて下さいね。